

# ピンクリボンNEWS

2020年度  
冬号  
Vol.9 No.4

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局 〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

**J.POSH**  
日本乳がんピンクリボン運動®

## TOPICS

### コロナ禍における 乳がん診療



川口市立医療センター  
乳腺外科部長

中野 聡子

新型コロナウイルス(以下:コロナとします)に関して、2020年3月にWHO からパンデミック宣言が出されてから、半年以上が経過しました。当初は、医療側の余力の問題により、手術の時期を先延ばししたり、手術を避けて別の治療を選択したりする場合もありました。

緊急事態宣言とともに人の移動が少なくなると、新規感染者数は減少しましたが、GoToにより自粛ムードが解禁されると、感染者数は増加に転じ、第3波に突入した模様です。

東京都では、都内の「感染状況」と「医療提供体制」を2つの柱として7つのモニタリング項目を設定しています。12月3日のモニタリング会議による感染状況の総括コメントとしては、「感染が拡大してい

ると思われる」、医療提供体制の総括コメントは、「体制強化が必要であると思われる」という判断となりました。各都道府県でも同様の傾向です。

さて、このコロナは、乳がん診療にもいろいろな側面から影響を及ぼしています。

#### 1. 検診の問題

皆さんも定期的に乳がん検診を受けていただいていると思いますが、コロナ騒ぎになった頃は、病院に行くのも心配で、検診を先延ばしていた方もいらしたかと思います。ただ、いつまで経ったらコロナが収束するかもわかりませんので、予防措置をとりながら、ぜひ検診を受けていただきたいと思います。(コロナ最新情報により状況が変わる場合もありますので、検診施設にご確認いただければと思います。)

#### 2. 病院に行くこと感染するのではないかという問題

自治体によっても対応は異なりますが、コロナ患者さんがいる病院を公表しているところもあります。ですが、コロナ患者さんがいても、感染が伝播しないような措置は取られていますし、お見舞いもご家族すらお断り、出入口は早々に閉じる、外来と入院の導線が交わらないようにするなどの対策が

〈次ページへつづく〉

取られているところが大半です。

必要な場合には受診を、急な用件でなければ、処方箋をお近くの薬局にFaxするなどの対応も行なっています。

### 3. 通院患者さんの発熱の問題

乳がんの治療中に外来に通院している方が、発熱で病院にいらっしゃることもあります。化学療法などの治療をしている方であれば、乳腺外科の外来ではなく、保健所などを通してコロナかどうかを調べれば良いのだと思いますが、化学療法や分子標的治療薬などの治療中となれば、その他の原因も調べなければなりません。

まず、コロナの抗原検査、CT検査を行い、コロナが否定されれば、治療に関連する肺炎などを疑わないといけません。コロナが否定されるまでは、他の患者さんと同じ待合室と言うわけにはいきませんので、別のお部屋で待機していただきます。このような点からも、熱があった場合には、あらかじめ病院にご連絡いただくと助かります。



### 4. 院内・院外の勉強会／学会など

治療方法は日々進歩しています。医師、看護師、薬剤師、など多職種を交えての勉強会は欠かせません。今年3月以降は院内でのカンファレンスすら開けない状況になりました。このような状況を打開するため、web会議が多くなりました。

乳がん関連では一番大きな「日本乳がん学会」も延期され、webでの開催になりました。最近ではweb形式を用いた会議やセミナーが多くなりました。

院内でも、密にならないように心がけて、勉強会を少しずつ再開し始めました。病気は待つてはくれませんし、新しい薬剤もどんどん出てきます。With コロナではありますが、前に進んでいきたいと思います。

### 5. 医療者の体調

私たち医療者も人間です。当然予防措置は適切に行なっているわけですが、社会で生活する以上、コロナにかかったり、熱が出たりすることはあります。私たちの日常診療は、テレワークと言うわけにはいきません。医療者側の体調にも配慮しつつ、患者さんにご迷惑がかからないように、チームのみんなで協力しあっています。

いつ収束に向かうのか、現時点ではまったくわかりませんが、ワクチンや治療薬が使えるようになり、インフルエンザと同じような扱いにできる日が訪れることを願っております。



当院のチーム乳腺で、乳がんで苦しむ方をなくすようお願いを込めて作ったオリジナルピンクリボンバッジです。(バッジに記載されたKMMCとは、Kawaguchi Municipal Medical Center：川口市立医療センターのことです。)

## ピンクリボン団体 新型コロナ禍の新しい活動モデル模索

「新型コロナウイルス禍」によりコロナ以前の“当たり前だった日常”は当面戻りそうにありません。社会全体が大きな行動変革を迫られており、全国のピンクリボン団体の皆様も日頃の活動方法やイベントの実施に苦慮されています。J.POSHでは2020年度の「ピンクリボン啓発活動助成金」を支給させて頂いた全国の啓発団体・患者会42団体に対し、これからの活動の参考となればと思い次の項目のアンケートを行いました。

- ①中止した活動(内容、中止理由)
- ②実施した活動(内容、留意点)
- ③コロナ禍での活動アイデア

### 中止理由

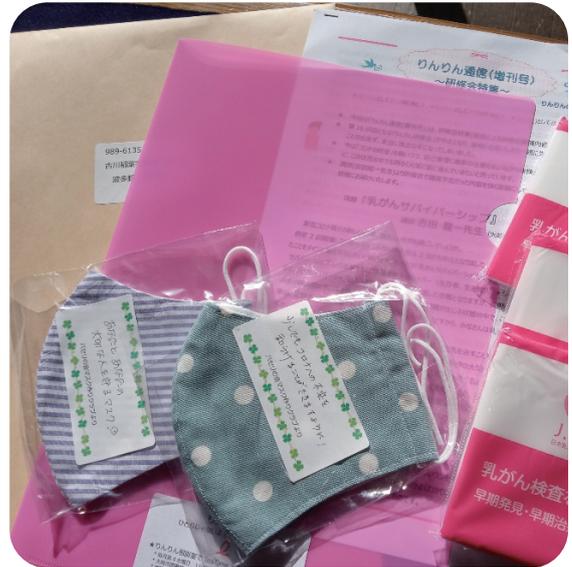
毎年開催されてきた恒例行事も中止を余儀なくされ、回答の端々に悔しさがにじんでいます。共通の中止理由は「密閉・密集・密接が避けられない」ということです。また、「開催場所が閉鎖された」、「医療関係者によるイベントであり、クラスターが発生すれば大きな影響がでる」、「60人以上が集まり、治療中の会員もいて免疫力に不安がある」などが理由となっています。

### 定例ミーティングへの影響

多くの団体、患者会様では通常は例会を行っておられますが、感染拡大の状況から、中止とされたところが多いようです。しかし、緊急事態宣言解除後は、コロナ対策を万全にし、少しずつ再開されているようです。

月1回の定例会、年1回の研修会は中止しましたが、マスク着用、入室時の手消毒、換

地元病院に贈呈された手作りマスク(りんりんの会)



気、間隔をあけた椅子の配置、体温チェック、参加者名簿の作成と条件付きで、少人数での「りんりん相談室」を開催しました。また、有志で3月～4月に手作りマスクを作成して5月に地元病院に贈呈も行いました。

(りんりんの会さん)

6月から例会を再開しましたが、Web開催の效能を見極めながら充実を目指します。

(のぞみの会さん)

「月2回実施してきた茶話会を一時中止したものの、6月から再開。お茶やお菓子も止めて基本の感染予防対策を徹底しています」

(とちち女性がん患者の集いプレシャスさん)

第2波終了後には、「9月から月1回、ソーシャルディスタンス、換気が十分な会場で『リハビリヨガ』を開催。5月予定だった『大人のがん教育』を会場のコロナ対策を十分実施した上で11月に実行」

(京都乳がんピアサポートさろん さん)

〈次ページへつづく〉

## ピンクリボン団体 新型コロナ禍の新しい活動モデル模索

9月25日 札幌駅前通地下歩行空間で、通行する人々を対象に行われた啓発イベントの様子(ピンクリボンin SAPPORO)



### 万全の対策をとり実施したイベント活動

「ピンクリボン in SAPPORO」さんは、9月25日、札幌駅地下空間で通行する人々に、啓発リーフレット配布を初め、乳がん最新情報のミニ講演会、チャリティー音楽ステージなどの啓発イベントを開催されました。

感染対策として、スタッフ全員フェイスマスクを着用し、啓発リーフレット配布チームは手袋を着用しました。イベント会場のスタッフ、関係者、出演者、客席など、とにかく人の間隔は1m以上保つため、誘導スタッフを配置。客席の入れ替えを行うため、ステージイベントは極力短くし、乳がんミニ講演を約5分として複数回行うなど3密防止に努められました。また、イベントブースでの乳がん触診体験は、感染防止のため実施せず、代わりに病院監修のスライドを上映するなど代替手段を採用し、ステージイベントはYou Tubeにて後日公開するなど3密防止を徹底して開催されました。

また、夜は札幌テレビ塔をピンクにライトアップされました。

広島乳腺疾患患者の会 のぞみの会さんは、「10月3日に尾道市内で『再発乳がんの治療』（吉山知幸先生）、同24日に広島

市内で『乳がん治療の最新トピックス』（角舎学行先生）の定例講演会・交流会を実施。両会場とも定員の半数以下の40人。参加者確認、入り口で検温、マスク着用、手指消毒など実施。

4月、7月予定の会は中止していたので久しぶりに会員が集まれて良かった」と回答されています。

あけぼの兵庫さんは、コロナ対応に十分な会場を手当てした上で、「あけぼのハウス(おしゃべり会)兵庫」を、参加人員を削減する代わりに、回数を増やして開催されています。理由として、「がんという病気は治療プラス精神面のサポートが必要です。体験者が直接会って話し合える事が大事と言う考えが基本です」と答えておられます。

あけぼの群馬さんも講師を招いての乳がん勉強会『あけぼのハウス』(9月)、お話し会(11月、12月)を検温、マスク、消毒、換気など、顧問の先生にアドバイスを受けて実施されるとともに、「集まりを頻繁に実施するのは難しいため、いつもより会報の発行を多くしている」とのことです。

10月1日ピンクリボン月間初日に初めて大宮ソニックシティ&スーパーアリーナを乳がん

ピンクリボン団体 新型コロナ禍の新しい活動モデル模索

優秀賞



最優秀賞



ピンクリボン運動推進埼玉県委員会賞

優秀賞



「伝えようピンクリボン〜乳がん早期発見で笑顔の暮らし〜」  
ピンクリボンライトアップ入賞写真



で悲しむ人が無くなるよう祈りを込めて、ピンクにライトアップを行う。併せて、人との接触の少ないピンクリボンライトアップフォトコンテストを初開催。「全国から素敵な作品184点の応募がありました」

(ピンクリボン運動推進埼玉委員会さん)



ライトアップされた  
さいたまスーパーアリーナ

かった人、多くの人の中は苦手という方も気楽に参加していただけるという事が解り、リモートでのイベントの重要性も分かり、今後の活動の参考になりました。」(ASHAREさん)

「オンラインによるおしゃべり会、勉強会、運動イベント。年配の方には敷居が高いので、「初めてのオンライン」活動も検討」

(マリアリボンさん)

「オンラインのためプライバシー保護や参加方法に配慮したWEBおしゃべり会。今後はオンラインでの活動がますます増えると考え、事務局スタッフ同士でマニュアルを共有」

(若年性乳がんサポートコミュニティPinkRing東京さん)

## インターネット配信の活用

葬会YouTubeチャンネル開設。チャイルドケア紙芝居・がん相談・患者サポート情報・地元バンド演奏を動画配信

(NPO法人葬会さん)

「10月よりZOOMを利用したリモートサロンを開催。ZOOMセミナーを受けながら、公開講演会・乳がん医療相談などの実施を準備中」

(アイビー千葉さん)

「リモートでアロマ石鹸手作りのノウハウを伝え、その石鹸を利用して入浴時の乳房セルフチェック方法を広げたい」とリモートワークショップを開催。今まで遠方で参加できな

「当会は独自でオンラインによる講演会や行事を行うスキルがないが、香川県のZoomの講習会に参加するなど勉強中。ケア帽子を

〈次ページへつづく〉

## ピンクリボン団体 新型コロナ禍の新しい活動モデル模索

寄付する運動を実施しており、抗がん治療中の患者さんに贈っている」（笑美の会さん）

6月からオンラインによるおしゃべり会・相談会を開始。「3密を避けることができ、海外からの参加もありコロナ以前と同様の活動が出来るまでになった。ただ、オンラインミーティングにも、通信トラブルへの対応、サポーターのZOOMのスキル向上、海外参加者の時差対応などが課題」と指摘されています。さらに、「電話しかツールのない方への対応も大切。取り残される人のないよう留意していく必要がある」と言う意見も付け加えられています。「対面での会を希望している方もあり、ソーシャルディスタンスを徹底し少人数(3人まで)の対面会を開催した」「オンラインでは人のぬくもりが伝わらない。治療真最中の方やこの時期にがん告知された方にとって『ガンよりも孤独が辛い』といった声もあった」とのことです。

(Petit Salon & Community MiliManaさん)

### 新たな活動方向

「啓発ツールとしてオリジナルトートバックを作成し、乳がん検診・セルフチェックを呼びかけるチラシとともに、自由に持って帰れるよう公共施設、保育園、協力店舗に置かせてもらうことにしました。」

(ピンクリボン～プレストサポートtomeさん)

「来年20周年を迎える会の記念企画として『体験談集』を最低限の人数で、できる限りパソコンやLINEで連絡、相談、情報交換を行い作成し会員に配布。みんなの体験や思い、辛い時の乗り越え方や工夫の情報共有を目指す。会って話すことはできないけれど、その代わりになれば、との思いです」。また、「今

後は気軽に当会のLINEを作成し、LINEで気軽に相談できるよう仕組みもいいかと思っています。直接ではないことで、逆に本音と言えることもあるかと思いますので」

(関西ひまわりの会さん)

青森ピンクリボンプロジェクトさんでは、FM青森で乳がんや乳がんについての一般の方の質問を受付、2人の医師が回答するラジオ特別番組を放送しました。主な質問は、マンモグラフィー検診の痛み、乳がんの遺伝について、高濃度乳房について、検診は何歳まで受けるべきか、男性乳がん等と幅広く、「乳がんについて興味を持っていただければと期待しています」。「2019年の当会イベントでのアンケート結果で、セルフチェックしない人は検診もしていない傾向でした。興味のない方にいかに興味をもっていただくかが課題で、それは人を集めるイベントだから可能という訳ではないと考えたからです。今後も、毎週5分でもいいのでラジオで、ひとつの質問に答えて音楽を流す番組を企画中で、自治体や企業様に企画を持ち込み、なんとか実現したいと考えているところです」。さらに「LINEによるネットワークで気軽に相談できるシステムも構築したい」ということでした。

**Aomori & Hachinohe Pink Ribbon Project**

10月は乳がん検診啓発活動強化月間！  
乳がんは乳がんの、つらいでも多くの命を奪う！  
 一人は救い出さず  
 乳がんの早期発見を中心としたピンクリボンプロジェクトをスタートさせました。  
 青森ピンクリボンプロジェクト実行委員会 / 八戸ピンクリボンプロジェクト実行委員会

**10月はピンクリボン月間です。**

**エフエム青森 特別番組**

**「青森&八戸ピンクリボンプロジェクト ~あなたのこと 守りたい~」**

**ON AIR 2020年10月16日(金) 13:30~13:55**

乳がんに関する質問を受付中！  
質問をくださった方の中から抽選で、  
 青森&八戸ピンクリボンプロジェクト・オリジナルマスクをプレゼント

青森&八戸ピンクリボンプロジェクトポスター

## コ ロナ禍のJMSを振り返って

12月14日現在 GoToトラベルは停止するとの報道があり、年末に向けて人の動きも少しは減ると思われます。このまま第3波も沈静していくことを祈ります。改めまして、コロナ禍での医療、検診と大変な中、3密対策をとっていただきJ.M.Sへのご参加いただいた施設の皆様、本当にありがとうございました。今年の春先は緊急事態宣言が発令され、検診もストップしていた医療機関も多くあったようで、J.M.Sへの参加保留や取りやめを行われた医療機関も例年では考えられないほど多くありました。

### ■ J.M.S医療機関の参加数 推移(地区別)

地区	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
北海道	27	28	34	33	37	42	44	44	40
東北	17	18	17	17	18	18	17	19	15
関東	90	93	99	90	99	111	115	127	107
東海	49	49	46	50	58	54	54	51	47
甲信越北陸	8	8	8	8	10	14	13	16	13
関西	53	61	62	64	64	66	69	68	58
中国・四国	4	42	40	44	46	46	45	48	43
九州・沖縄	52	53	60	58	62	62	59	65	52
合計	300	352	366	364	394	413	416	438	375

今年は、がん検診率全体の低下が顕著であるとの報道もありました。2017年データでは「乳がん累積罹患リスク※1」は、「女性9人に1人が乳がんとなる」と発表されていますが、乳がんは「早期発見、早期治療」で治るがんと言われておりますので、検診を受ける機会が減るのは残念でなりません。また、3月～9月の間に、乳がん検診ができない方、止められた方も多くあるようですが、この方たちがJ.M.Sで受診された割合は8.1%程度と推測されます。

### ■ J.M.S医療機関の3月～5月6月～9月検診状況表

	例年と変わり無し	10%～30%減	30%～50%減	50%～70%減	70%以上減
2020年3月～5月の状況(回答数252医療機関)	7.9%	27.8%	20.2%	18.7%	25.4%
2020年6月～9月の状況(回答数255医療機関)	37.6%	42.4%	11.8%	5.1%	3.1%

※1：ある年齢までにある病気と診断されるおおよその確率(ただし、その病気と診断されるまでは死なないという仮定のもとでの確率)  
国立がん研究センターがん情報サービスより

2009年から始めましたJ.M.Sの認知度(J.M.Sを知って受診した人の割合)が、うれしいことに初めて10%を超えました。まだまだ、十分な認知度ではありませんが、働く女性が年代別でも年々増加し、「日曜日だから」と言う理由、「日曜日でありがたいです」のコメントも多くありますので、あらゆる機会を通じてPRを行うなど継続することで認知度向上を行いたいと思います。また、医療機関の皆様も検診の間合せ時に勧める、ダイレクトメールでの案内など医療機関の皆様の努力の結果で、医療機関の検診予定者数に対して受診者数が近づいていることも喜ばしいことです。

### ■ J.M.Sを知って受診した割合

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
5.5%	4.3%	5.0%	5.7%	5.7%	6.8%	9.1%	7.1%	13.3%

### ■ 検診予定者と実受診者

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
予約定員	5,301	10,578	6,103	6,994	7,100	7,625	8,464	8,649	7,474
受診者	4,957	5,025	5,028	6,952	6,368	6,898	7,541	7,055	6,537
受診率	93.5%	47.5%	82.4%	99.4%	89.7%	90.4%	89.1%	81.6%	87.5%

## 事務局からのお知らせ



### 「家族で湯ったりキャンペーン2020」の当選者決定

2013年に始まったキャンペーン。初年度は7軒の施設様にご招待頂きましたが、年々ご協力頂く参加施設様は増え、2020年はなんと26軒もの施設にご協力頂きました。ご協力施設様には心より感謝申し上げます。さて、沢山のご応募の中から、厳正に抽選をし、26名の当選者の方に、ご希望の宿泊施設の招待状をお送り致しました。ご家族で、ゆっくりお楽しみください。応募したけど招待状が届かなかった～と仰る方は大変残念ですが、当選ではなかったという事で、ご了承下さいませ。

また来年もキャンペーンは続けさせて頂く予定ですので、当選されなかった方は、来年に望みを託して再チャレンジして頂ければと存じます。また、宿泊施設様には、来年も引き続きご参加いただけますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

※昨年度の当選者の方で、2020年の緊急

事態宣言までに招待状を使えなかった方は、施設様には延長のお願いをしてありますので、コロナの状況を見ながらとなりますが、期限内にご利用頂きますよう、お願い致します。

For the future generation!

J.POSH奨学金 まなび。

あなたにも支えられる

# 子供たちの未来

「J.POSH奨学金 まなび」対象の子供は  
本人の母親または保護者が、乳がんで亡くなっているか、現在乳がんで闘病中による  
経済的な理由から、修学またはその継続が困難な高校生です。  
月額1万円（年額12万円）の学資の助成（無返済）を行います。

### J.POSH 奨学金「まなび」 来年度の募集につきまして

2020年は新型コロナの影響で、世の中の皆さんが大変な想いをする1年となりました。特に、高校生のお子さんを持ち、ご自身が乳がんの治療中でありながら、仕事も思うようにできずに、減収となった方も多いのではないかと案じております。

そこで、J.POSHでは、2021年度まなび奨学生の募集人数を、新型コロナ禍特別枠として**10名を増員し、85名**と致します。皆様のまわりに対象となる方がおられましたら、情報を共有して差し上げて下さい。

## ピンクリボンNEWSあとがき

前号(2020・秋号)に寄稿して頂いた大阪大学大学院の平井啓准教授は「新型コロナウイルス感染症下での受診行動」について『多くのがん患者さんがウイルス感染を心配して病院受診を差し控える現象が起きた。合理的に考えると受診したことで新型コロナウイルス感染症に罹患するリスクはとても低い。ガン治療の中断は、のちのち大きな影響を与える可能性があり冷静に比較すれば、がん治療のために病院

を受診する方が合理的な選択』と書いておられます。さらに、『複数の不確実なことを考慮しながら、自分自身の価値の基準はどこにあるのか気づくことが自身で納得できる選択ができるのでは』と指摘されています。“病院でクラスター発生”といったニュースに接すると、一瞬身構える患者さんも少なくはないのではと思われそうですが、平井准教の『自身の価値の基準』を問うてみてはいかがでしょうか。(I.T)